

若年層における育児休業等取得に対する 意識調査（速報値）

厚生労働省イクメンプロジェクト

育てる男が、家族を変える。社会が動く。



ひと、暮らし、みらいのために
厚生労働省
Ministry of Health, Labour and Welfare



調查概要

調査目的

- 現在の若年層の育休取得や育児に対する意識のリアルを把握し、企業の情報発信の参考にしてください。
- 各企業で経営者や管理職に意識変革の必要性を伝える材料にしてください。

調査手法

WEBによる定量調査

対象者条件

全国 18-25歳男女 高校生・大学生などの学生若年層

サンプル数

スクリーニング調査 : 7,840サンプル
本調査 : 2,026サンプル

調査実施

2024年6月22日（土） ～ 2024年6月25日（火）

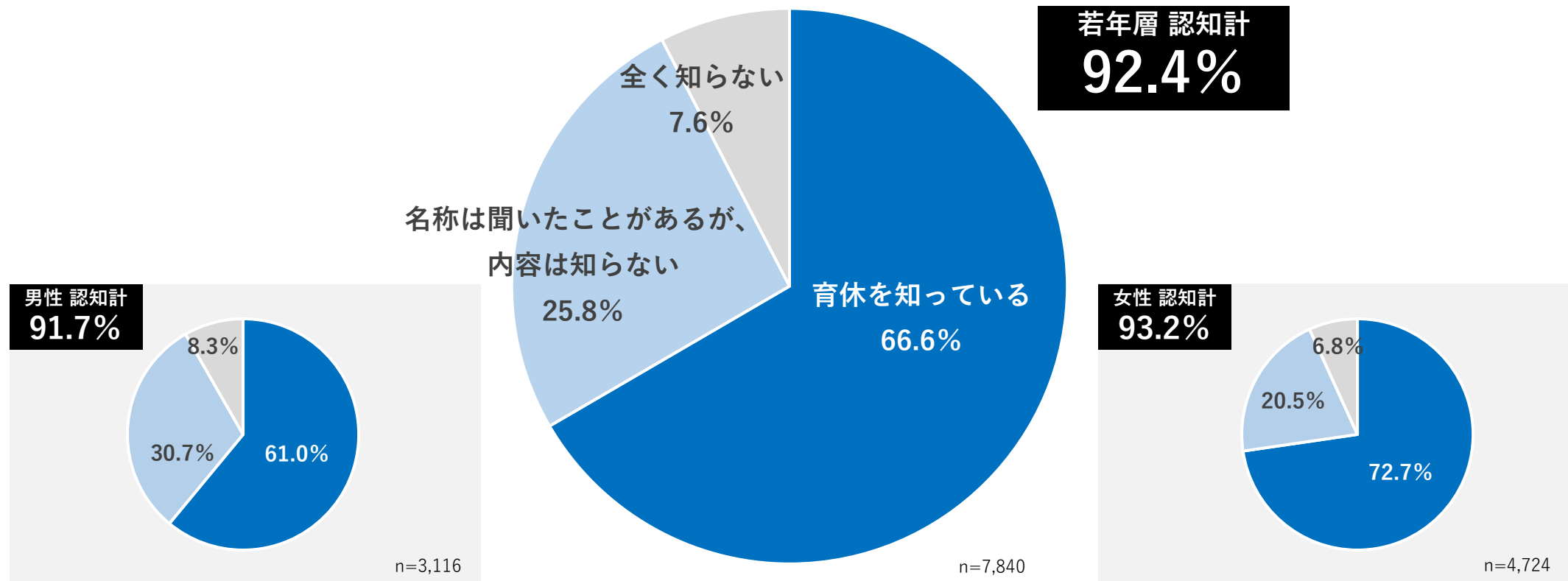
01

育休取得に対する認識

若年層の**92.4%**が**育休**（育児休業制度）があるということを**認知**している。男性・女性ともに約9割が認知している。

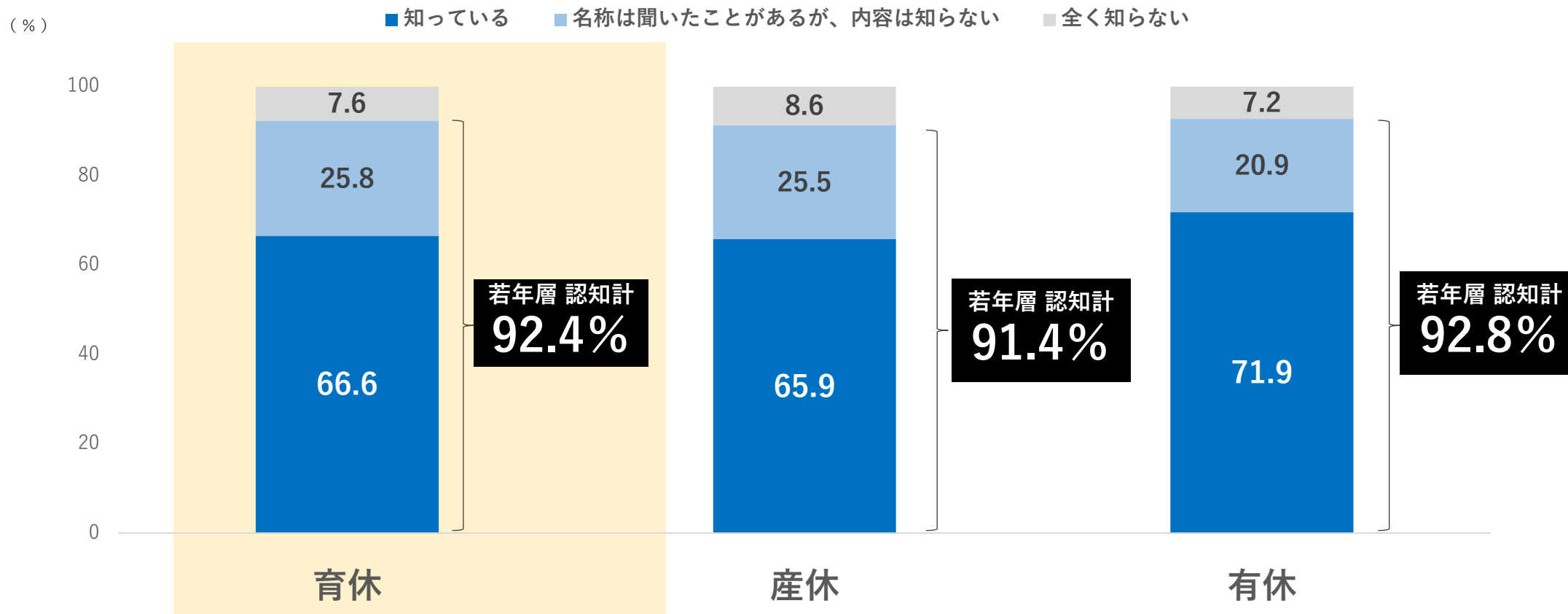
■あなたは、以下のそれぞれのお休みの制度について知っていますか？_育休

■ 知っている ■ 名称は聞いたことがあるが、内容は知らない ■ 全く知らない



認知度を有休と育休で比較すると、ともに若年層の90%が認知しており、認知度が最も高い有休との差も僅か0.4Ptである。

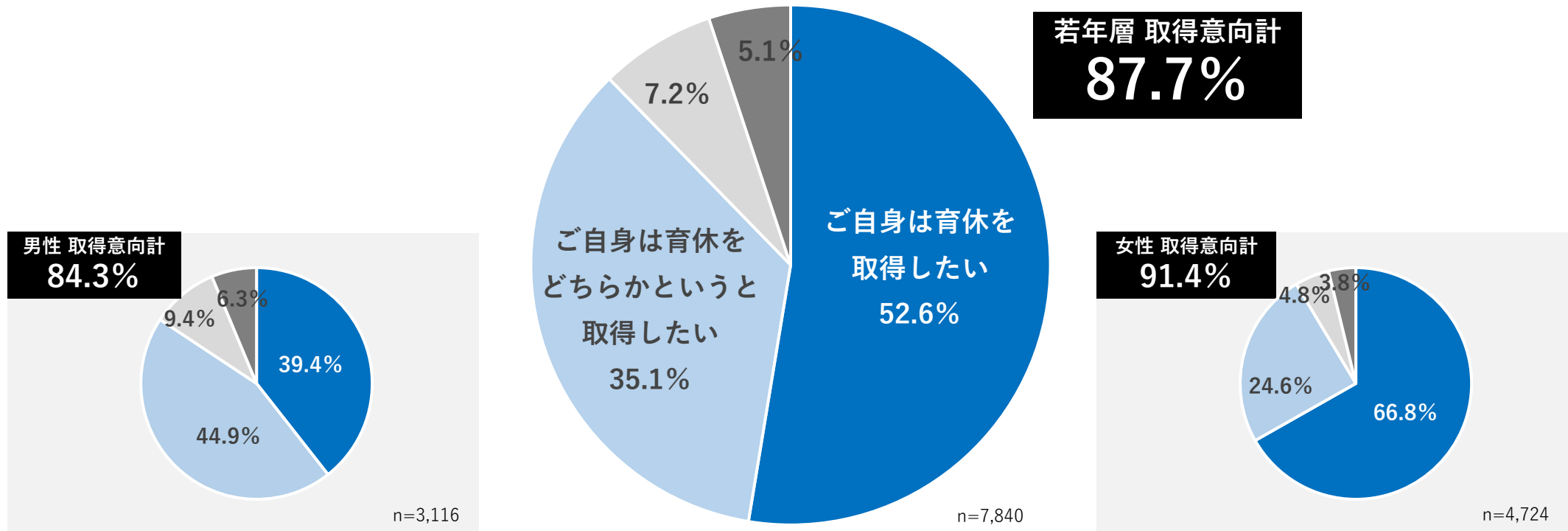
■あなたは、以下のそれぞれのお休みの制度について知っていますか？



若年層の87.7%が育休を取得したい。 男性84.3% 女性91.4%。

■あなたは、ご自身で育休をどの程度取得したいと思いますか。

■取得したい ■どちらかという取得したい ■どちらかという取得したくない ■取得したくない

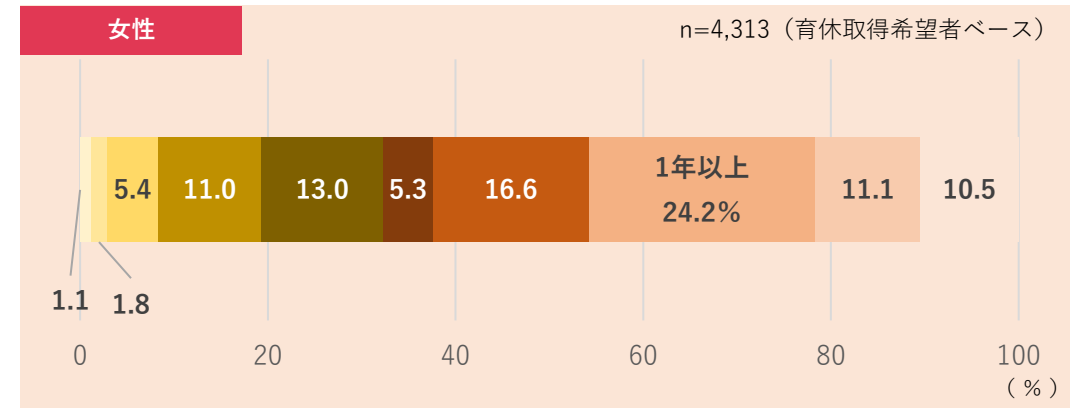
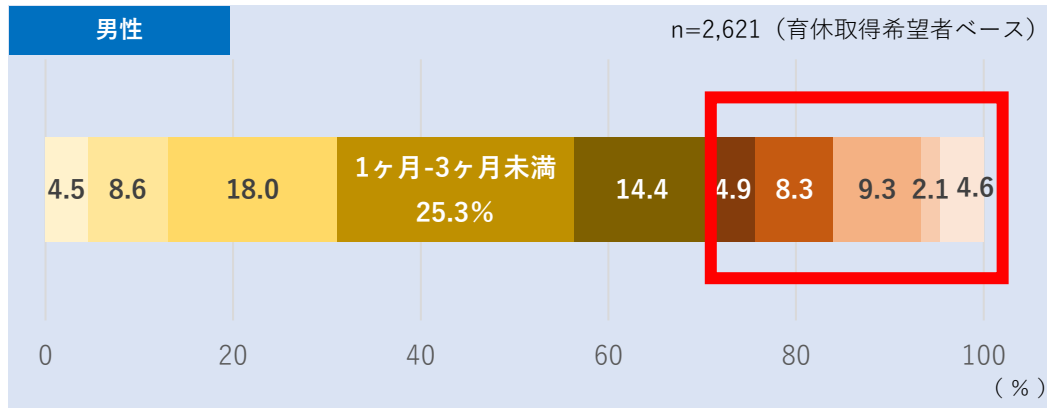
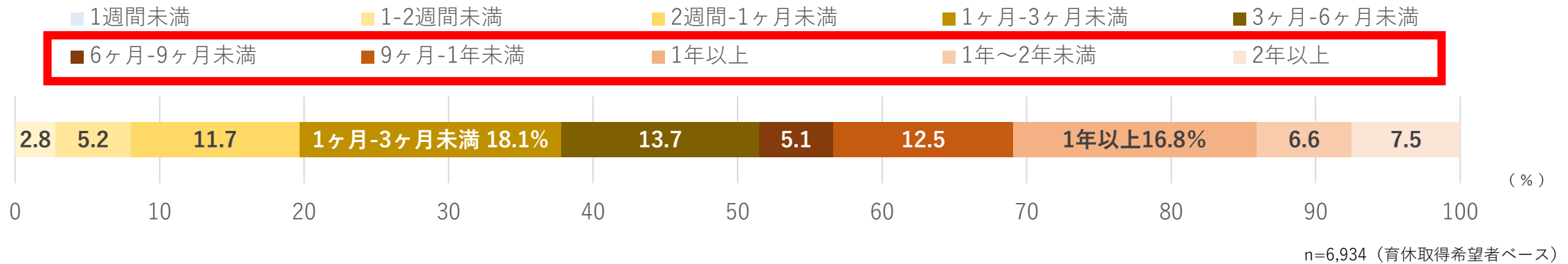


男性の育休取得希望期間

25.3%が1-3ヶ月を選択

29.2%は半年以上を希望。

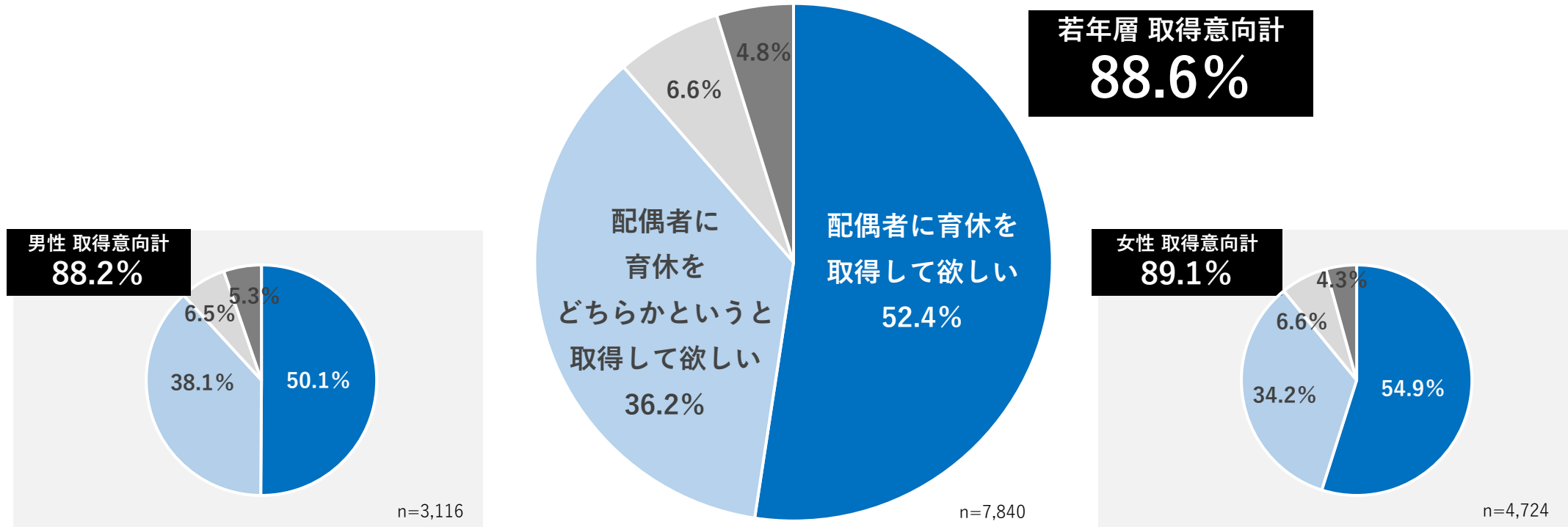
■あなたは、ご自身でどれだけの期間育休を取得したいですか。



男女とも、若年層の **9割近く（88.6%）** が配偶者にも育休を取得して欲しいと思っている。

■ あなたは、配偶者に育休をどの程度取得して欲しいと思いますか。

- 取得して欲しい
- どちらかという取得して欲しい
- どちらかという取得して欲しくない
- 取得して欲しくない



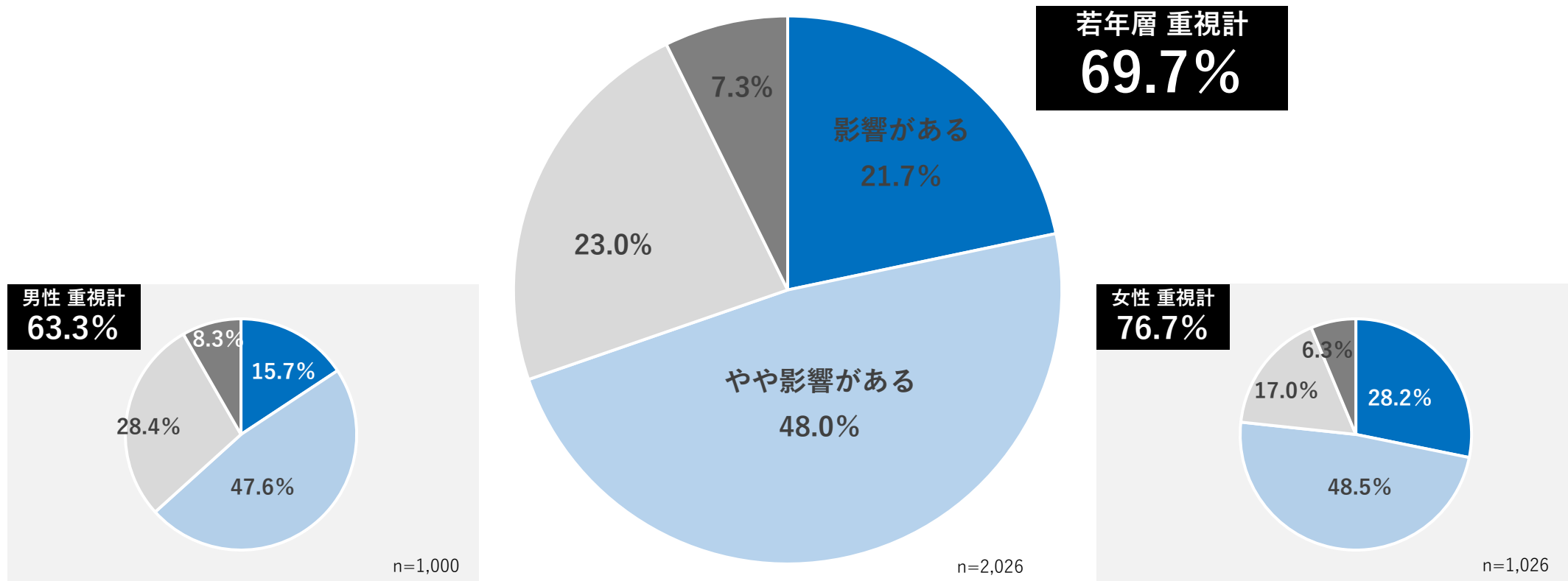
02

育休の就職活動に対する影響

就職活動で企業の育休取得情報を重視 **69.7%** 女性**76.7%** 男性**63.3%**。

■あなたが就職活動をするにあたって、企業の育休の取得状況は、どの程度あなたの企業選定に影響を与えていますか？

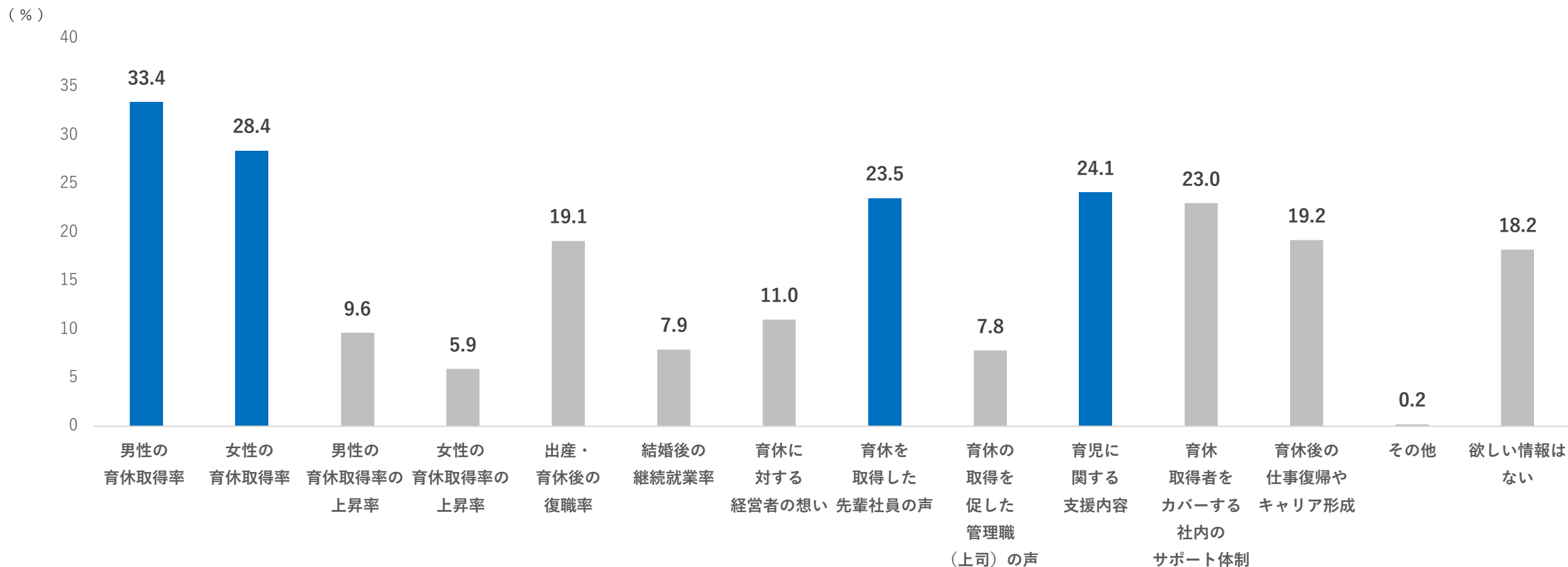
■影響がある ■やや影響がある ■あまり影響がない ■影響がない



就職したい気持ちが高まる情報

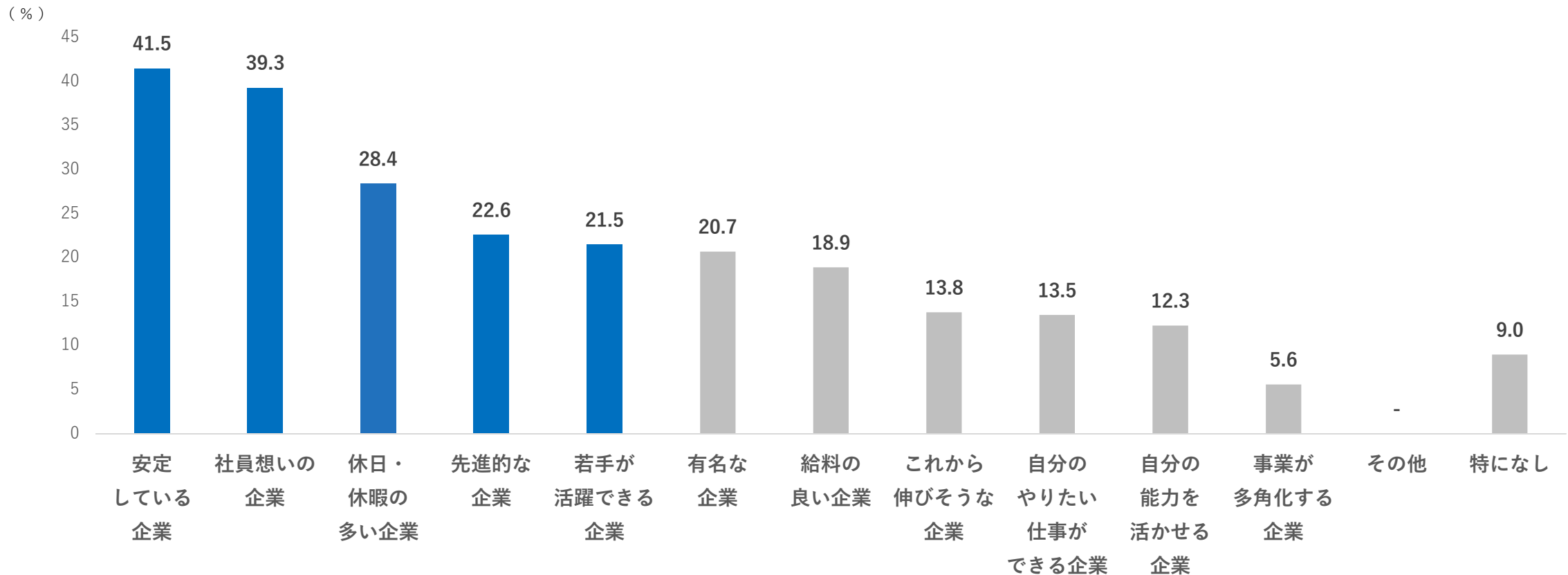
1位は男性の育休取得率。

■ あなたは企業からどのような結婚や出産に関わる情報があると就職したい気持ちが高まりますか？



育休取得率が高い企業は安定している(41.5%)、社員思い(39.3%)、先進的(22.6%)、若手が活躍できる(21.5%)イメージ。

■ あなたは、育休の取得率が高い企業に対してどのようなイメージを持ちますか？

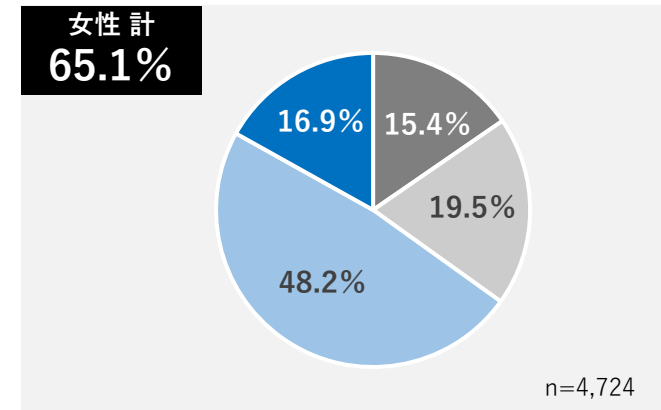
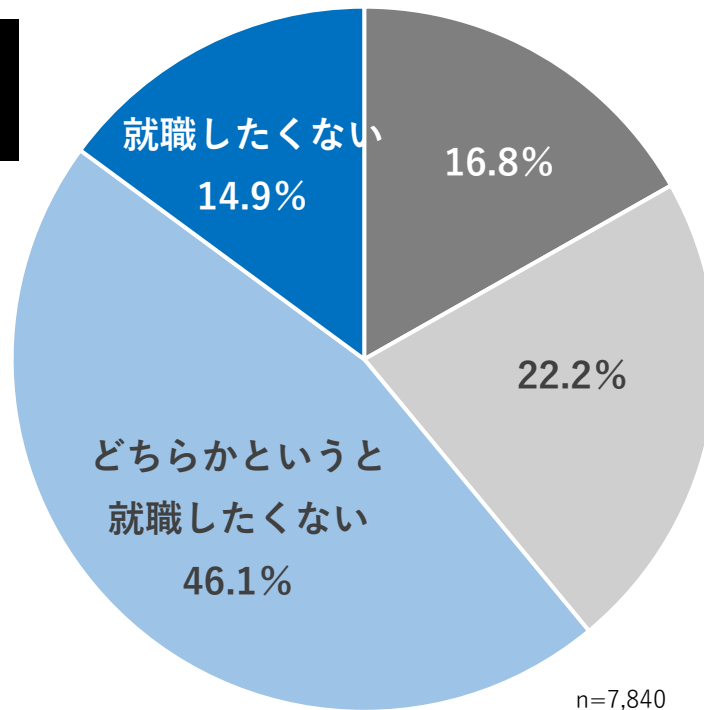
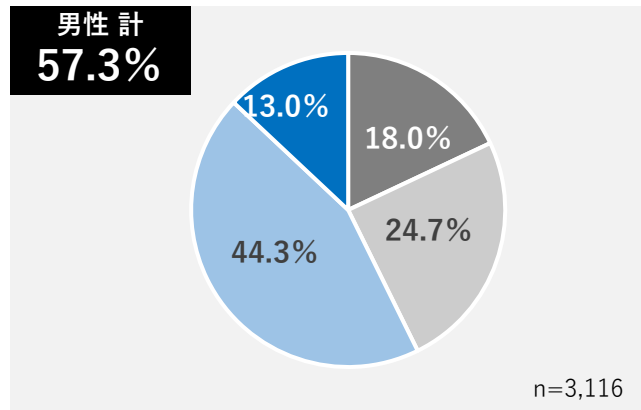


育休取得実績がない企業に就職したくない 61.0% 男性57.3% 女性65.2%。

■ 仮に男性の育休取得の実績がない企業があったとして、
あなたは、その企業に就職したいと思いますか？

■ 就職したい ■ どちらかという就職したい ■ どちらかという就職したくない ■ 就職したくない

若年層 就職したくない計
61.0%



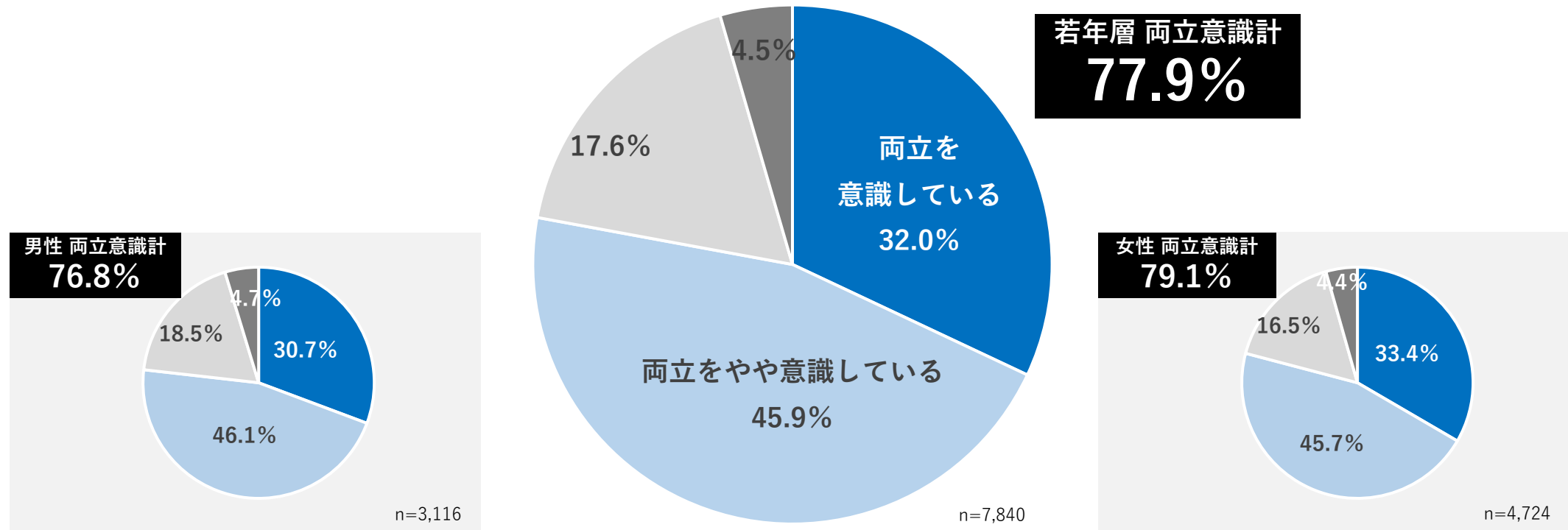
03

ワーク ・ ライフ ・ バランス

若年層の**77.9%**が仕事とプライベートの両立を意識。男女に大きな差はなく仕事とプライベートを両立したいという意識が強い。

■あなたは、新卒で入社する会社を選ぶ際に、
将来の仕事（キャリア）とプライベートの両立を意識していますか。

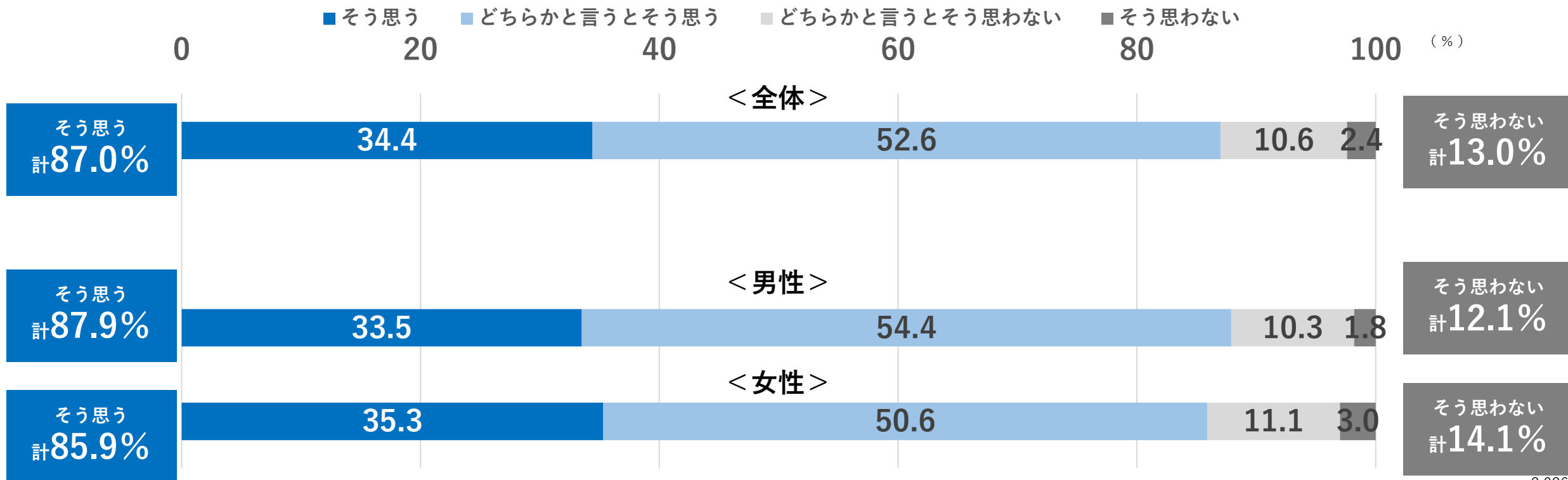
■ とても意識している ■ やや意識している ■ あまり意識していない ■ 全く意識していない



「仕事も育児も熱心に取り組むつもり」 男性87.9% 女性85.9%。

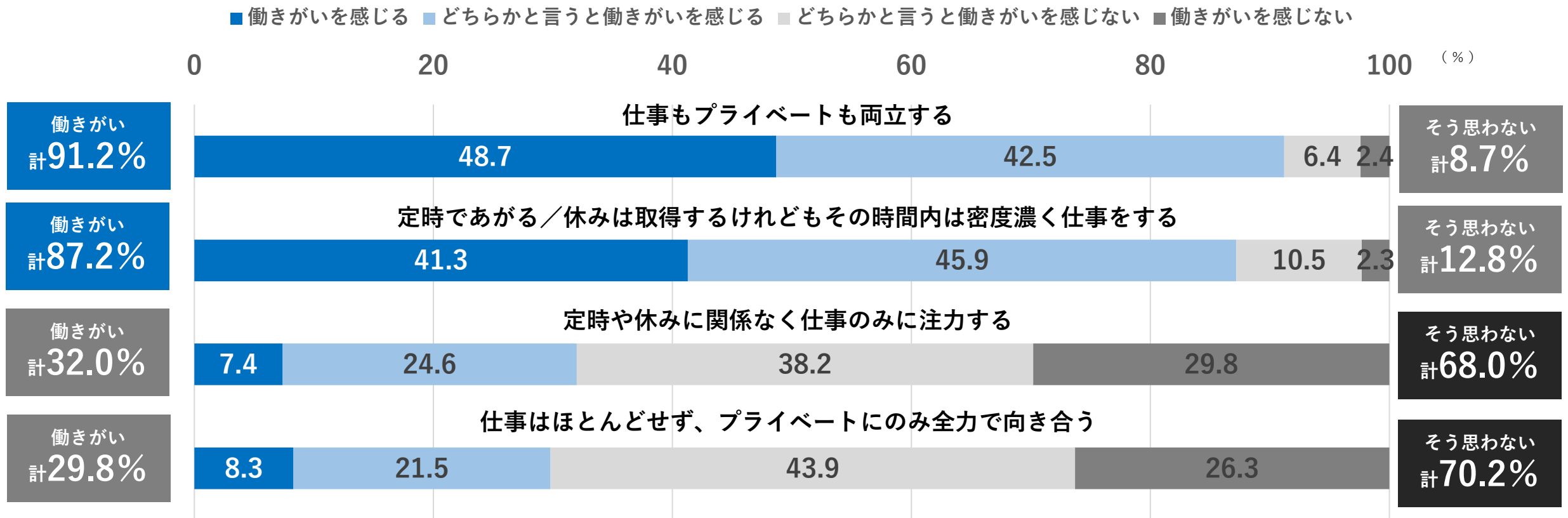
■あなたは、仕事や育児に対しての想いとして、それぞれどのように思いますか？

私は、仕事も育児も熱心に取り組むつもりだ



若年層が働きがいを感じる働き方は 仕事とプライベートの両立・時間内で密度濃く働く。

■あなたは、以下の「社会に出た後の働き方」についてどのように感じますか？

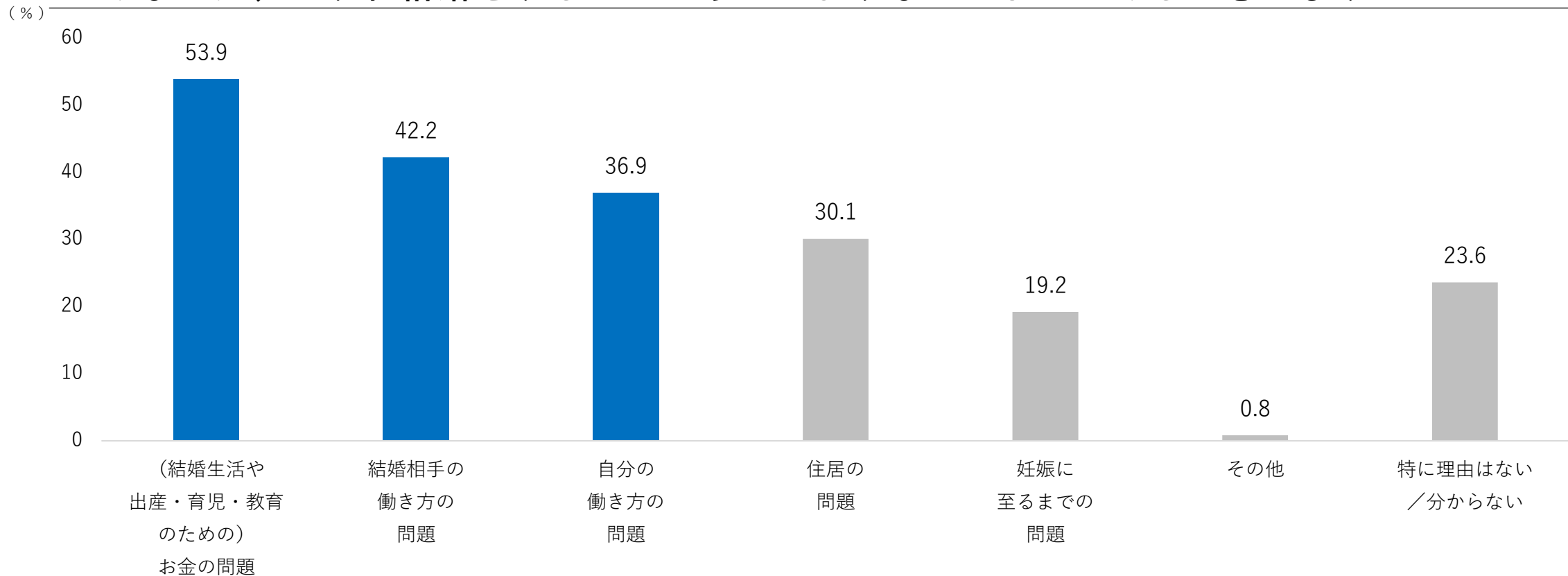


04

結婚・子育てのハードル

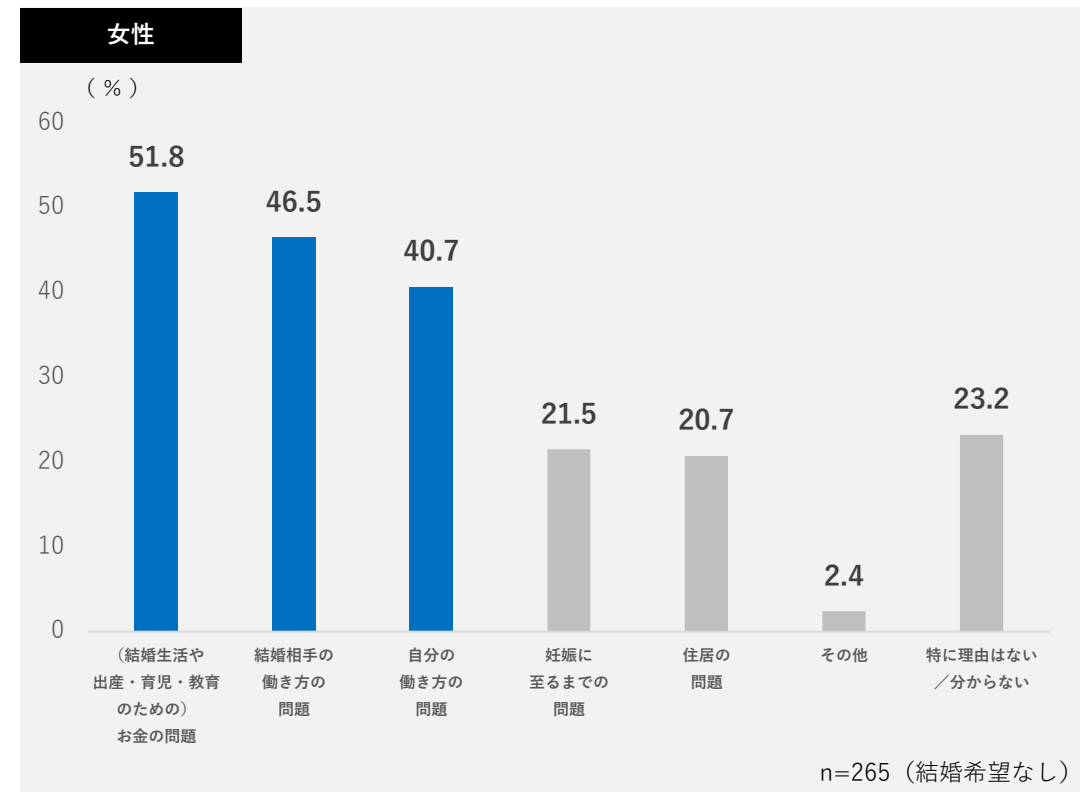
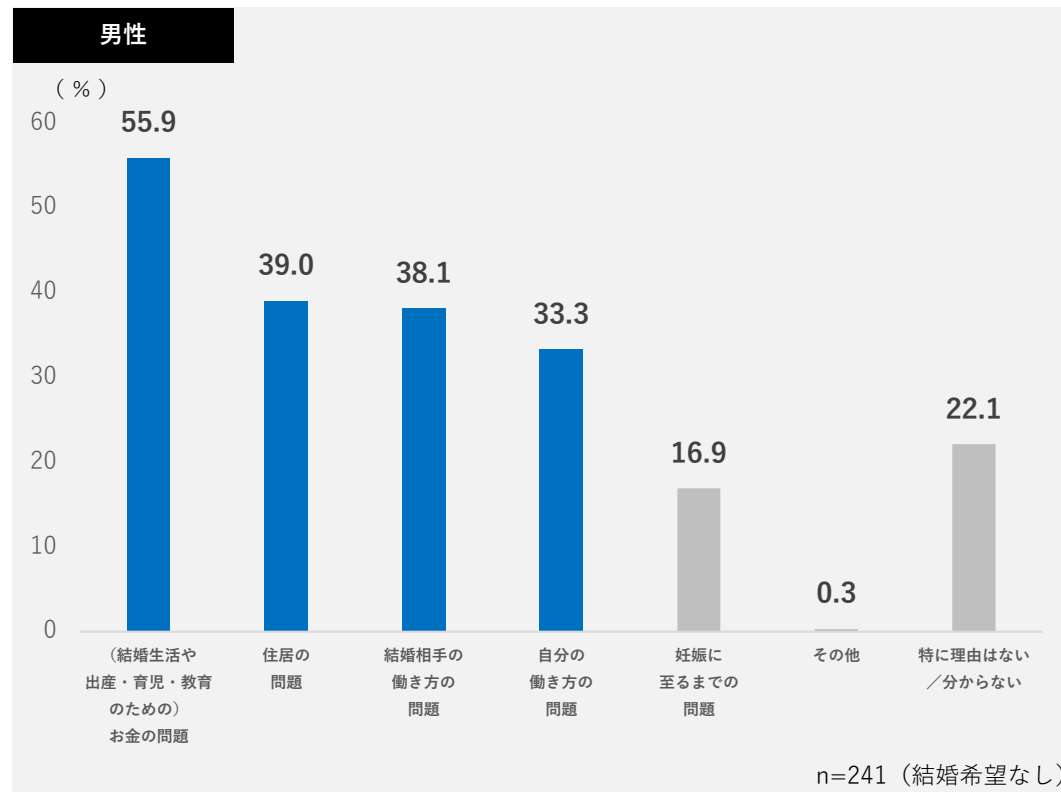
結婚のハードルは、**お金の問題が53.9%**と最も高い。
次いで、**結婚相手の働き方（42.2%）**、**自分の働き方（36.9%）**の順になっている。

■あなたは、いずれ結婚をしたらどのようなハードルがあると思いますか？



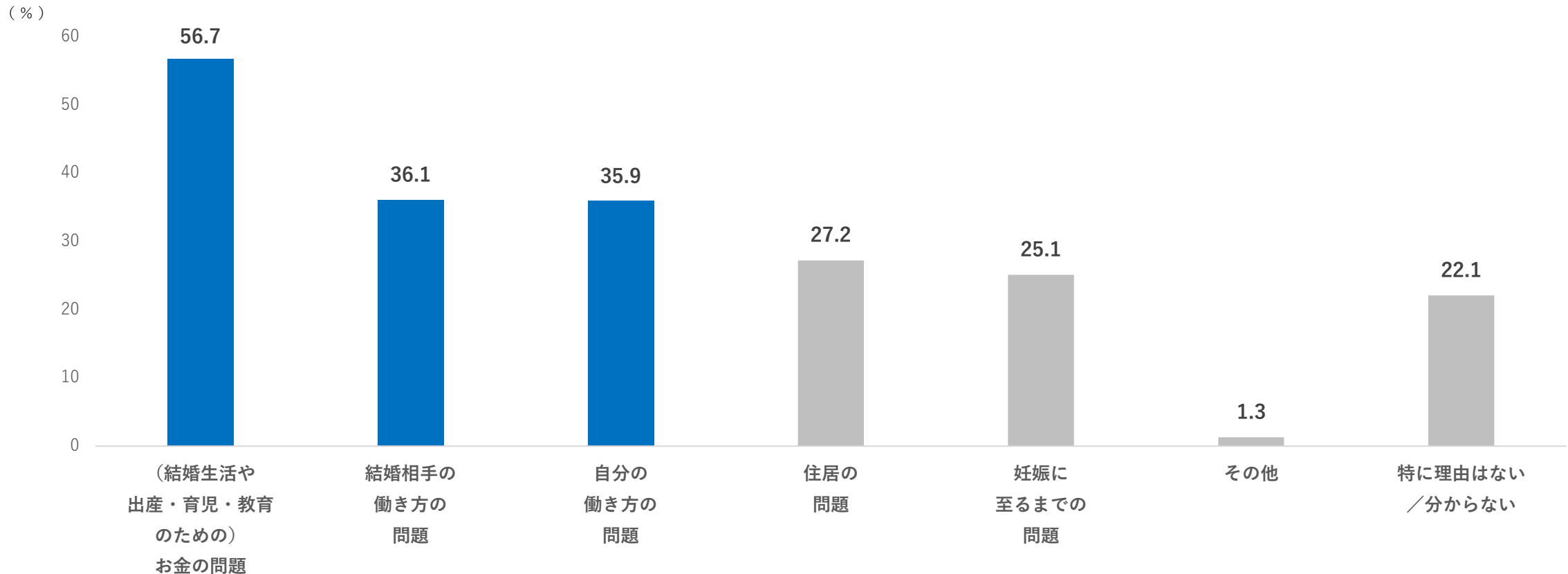
男性、女性ともに結婚のハードルは、お金の問題がもっとも多く、次いで、男性は住居の問題、女性**は結婚相手の働き方の問題**の順になっている。

■あなたは、いずれ結婚をしたらどのようなハードルがあると思いますか？



子育てのハードルは、**お金の問題が56.7%**と最も高い。
次いで、**結婚相手の働き方（36.1%）**、**自分の働き方の問題（35.9%）**の順になっている。

■あなたは、いずれ子どもを授かるとしたらどのようなハードルがあると思いますか？



男性、女性ともに子育てのハードルは、お金の問題がもっとも高い。次いで男性は結婚相手の働き方（36.4%）、住居（35.1%）、女性は自分の働き方（39.7%）、結婚相手の働き方（35.8%）の順になっている。

■あなたは、いずれ子どもを授かるとしたらどのようなハードルがあると思いますか？

